

<p>社会言語学 社会方言と地域方言に分類</p> <p>社会方言 伝統的国語で<b>位相語</b>と呼ばれる。位相は<b>菊沢季生</b>が命名した。 江戸時代の社会階層に応じた武士言葉、廓言葉など</p>	<p>□<b>若者言葉</b>：若者が日常用いる俗語、スラングなど。非標準変種：潜在的威信 仲間意識を高めるための集団語である。低い変種が好まれる。 「り」（了解）「タピる」など略語を用いる。 「超〜」「KY」流行語になったものもある。 「むか〜く」「めっちゃ」方言が全国に広がったケースもある 「ドタキャン」「ナビ」などは定着化している。 「ら抜き言葉」も世代を超えて定着しつつある。 「ぶっちゃんけ」「ていうか」若者言葉の談話標識。 体育会系の「〜っす」は代々若者に受け継がれている。</p>
<p><b>トラッドギル</b>：「言語と社会」</p> <p>上流社会 標準変種：<b>顕在的威信</b>：日本なら山の手東京方言 下流社会 非標準変種：<b>潜在的威信</b>：日本なら若者言葉</p> <p><b>ラボフ</b>：ニューヨークのデパートでの[R]の発音研究。上流では[R]がよく現れる。</p> <p><b>インフォマント</b>：言語調査の被調査者</p>	<p><b>集団語</b>：<b>柴田武</b>が提唱。俗語、スラング、隠語「ホシ」、術語、専門用語 ジャーゴン：集団語の一種で、内集団にだけに通じる特殊な語</p>
<p>□<b>ジェンダー</b>：生物的な違いでなく、歴史的社会的側面による性の差異。</p> <p>会話スタイルの性差</p> <p>男性：<b>レポートトーク</b>：情報収集が中心 女性：<b>ラポートトーク</b>：相手との共感、繋がりを求める</p> <p>男性語：「めし」「はら」「食う」 女性語：語彙としては少ない。イントネーション、パラ言語で表現 「〜わ」「〜ね」など終助詞、間投助詞の使用が多い 現代社会で言葉遣いの性差が少なくなっている。</p> <p><b>ポリティカル・ポライトネス</b>：中立的な表現「看護婦」「看護師」 「ビジネスマン」「ビジネスパーソン」「黒人」「南米系アメリカ人」</p> <p><b>女房詞</b>：女房＝宮中における女官の総称[室町時代の隠語が一般化] 「おでん」「おひや」「おこわ」「おなか」「おかず」「おみや」 「しゃもじ」「ささ（酒）」「白物（塩/豆腐）」「青物（野菜）」</p> <p><b>ジェンダーフリー</b>：性別的分担を無しにする。（和製英語）</p>	<p>□<b>役割語</b>：ある言葉遣いから特定の人物を想起させる特徴的な話し方。 言語上のステレオタイプと言える。 「それがし」（武士）「わがはい」知的階級の男性 「ちがうワン」（犬）「よろしくてよ」（お嬢様）</p>
<p><b>男性の発音の特徴</b></p> <p>[ai]が[ee]になりやすい。「やばい」「やべえ」 [oi]が[ee]になりやすい。「すごい」「すげえ」</p> <p><b>女性の発音の特徴</b>：子音が落ちやすい 撥音化：「わからない」「わかんない」 促音化：「あたたかい」「あったかい」 音節脱落：「するところ」「するところ」</p>	<p>□<b>幼児語</b>：幼児期に特有の語彙や不完全な話し方。 クーイング：赤ちゃんが出す「あー」「えー」などの母音長音 喃語：「ダダダダ」「パパパパ」など子音+母音を連ねた撥音 一語文：「わたし」が「あたち」になる。 犬は「わんわん」車を「ブーブー」と擬声音や擬音語で表す。 「まんま」のように発音しやすいマ行やバ行を使う 片付けることを「ないない」のように反復して言う。</p> <p>□<b>レジスター</b>：言語使用域 話し手が場合や立場によって個人の中で言い方を変えて用いる 個人の言語変種の使用域を示す。＝スピーチスタイル 「傘かしていただけないでしょうか」「傘かして」 表現形式から音声（パラ言語）まで異なる。 飲食店の隠語「お愛想」（お勘定）が広くお客まで使うようになることを「使用域の制限がなくなった」という。</p>

<p>地域方言</p> <p><b>柳田国男</b>：方言学の父『蝸牛考』『遠野物語』膨大な著書がある 方言圏論：文化の中心市（京都）から同心円状に伝播した結果 発生 of 古い語ほど、遠隔地で見いだされるという学説</p> <p><b>東条操</b>：方言学の母。<b>方言区画論</b>を提唱。方言の地理的分類。 本土方言[東部/西部/九州方言] 琉球方言[奄美/沖縄/先島方言]</p> <p><b>金田一春彦</b>：<b>方言孤立変遷論</b> 日本の中央は規範意識が高いので音韻は変化しにくい。 周辺部の方が音韻は変化しやすい。 中央部の連母音[ai]が古く、周辺部[æ:][ɛ:]は新しい</p>	<p><input type="checkbox"/>方言の敬語：「西高東低」西日本では敬語の種類も使用頻度も高い。 関西「～はる」は身内にも使う、<b>身内尊敬用法</b>。「れる/られる」レベル。 「お父さんはいてはります」 <b>無敬語地帯</b>：北関東/東北部 「そだなし」「そだのう」：文末表現やイントネーションで敬意を表す</p> <table border="1" data-bbox="1691 367 2139 502"> <tr> <td data-bbox="1691 367 1841 454">い (え)</td> <td data-bbox="1841 367 1991 454"></td> <td data-bbox="1991 367 2139 454">う (お)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1691 454 1841 502"></td> <td data-bbox="1841 454 1991 502">あ</td> <td data-bbox="1991 454 2139 502"></td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/>本土方言と琉球方言の母音体系 本土方言：<b>5母音体系</b>[あ・い・う・え・お] 琉球方言：<b>3母音体系</b>[あ・い・う] 元は3母音体系から[え/お]を派生させて5母音になった。 酒[sake][saki] 心[kokoro][kukuru] 「え」→「い」「う」→「お」</p>	い (え)		う (お)		あ													
い (え)		う (お)																	
	あ																		
<p>方言分布</p> <p><b>周囲分布型</b>：文化の中心地から同心円状に分布 「つらーかおーつら」「ででむしーマイマイーカタツムリーナメクジ」</p> <p><b>東西分布型</b>：東西方言境界線『<b>糸魚川-浜名湖線</b>』</p> <table border="0" data-bbox="197 726 952 981"> <tr> <td>東「ない」</td> <td>西「ぬ」「ん」</td> <td>東「起きる」</td> </tr> <tr> <td>東「しょっぱい」</td> <td>西「からい」</td> <td>西「起きよ」</td> </tr> <tr> <td>東「わかっている」</td> <td>西「わかっちょる」</td> <td>東「買った」</td> </tr> <tr> <td>東「行かない」</td> <td>西「行かぬ」打消し</td> <td>西「買った」</td> </tr> <tr> <td>東「いる」</td> <td>西「おる」</td> <td>東「雨だ」</td> </tr> <tr> <td>東「マック」</td> <td>西「マクド」</td> <td>西「雨じゃ」</td> </tr> </table> <p><b>交互分布型</b>：2種類の語形が黄河に並んで分布 ベロ-舌-ベロー舌-ベロ</p> <p><b>南北対立分布型</b>：2種類の語形が日本海側と太平洋側で二分して分布 太平洋側「しもやけ」日本海側「ゆきやけ」</p> <p><b>複雑分布型</b>：多様な語形が全国様々な地域に複雑分布 「めだか」</p>	東「ない」	西「ぬ」「ん」	東「起きる」	東「しょっぱい」	西「からい」	西「起きよ」	東「わかっている」	西「わかっちょる」	東「買った」	東「行かない」	西「行かぬ」打消し	西「買った」	東「いる」	西「おる」	東「雨だ」	東「マック」	西「マクド」	西「雨じゃ」	<p><input type="checkbox"/>方言イメージ「おいでませ山口」「めんそーれ」沖縄「寄ってたんせ」秋田 方言が観光誘致に使われる現象になった。</p> <p><input type="checkbox"/>方言コスプレ：方言が肯定的に受け止められ、自分で演出する現象。 関西人以外の「なんでやねん」「お引き受けしたでござす」など 方言のアクセサリー化：アクセサリーのように方言を着脱する 方言のおもちゃ化：メールなどに織り交ぜ、娯楽としての価値を見出す</p> <p><input type="checkbox"/>方言コンプレックス：自分の使う方言が恥ずかしいと否定的な感覚になること。</p> <p><input type="checkbox"/>方言のアクセント：<b>N型アクセント</b>=三型/二型/一型アクセント</p> <p><b>京阪式アクセント</b> 4種類：一番古い 東京より型の数が多い。語頭が高高か低低かでも区別がある</p> <p><b>東京式アクセント</b> 3種類：京阪式から派生した三型アクセント ピッチの上がり目のみで区別。京阪式を東西で挟んで分布</p> <p><b>二型アクセント</b> 2種類 鹿児島</p> <p><b>一型アクセント</b> 1種類 宮崎 都城 全ての単語/分節において最終音節を高く発音する 弁別機能は無いが、分節のまとまりを示す。 「きが」「あめ」「あめが」「おとこ」「おとこが」</p> <p><b>無アクセント</b> 0種類：東北/九州/関東一部地域に分布 ※新しいものほどアクセントの型が少ない。</p>
東「ない」	西「ぬ」「ん」	東「起きる」																	
東「しょっぱい」	西「からい」	西「起きよ」																	
東「わかっている」	西「わかっちょる」	東「買った」																	
東「行かない」	西「行かぬ」打消し	西「買った」																	
東「いる」	西「おる」	東「雨だ」																	
東「マック」	西「マクド」	西「雨じゃ」																	
<p><b>気づかない方言</b>：共通語と語形が同じ語彙であるため、方言と認識せず使う方言 「こわい（北海道）」「えらい（東海）」「せこい（徳島）」疲れた 「なげる（北海道/東北）」捨てる 「なおす（関西）」片付ける 「みえる（東海三県）」おられる 「書いてみえる」</p>																			

<p>消滅の危機にある言語：ユネスコ</p> <p>【深刻】 アイヌ語【重大】 八重山語/与那国語</p> <p>【危険】 八重語/奄美語/国頭語/沖縄語/宮古語</p>	<p><b>中国方言</b> 音韻面で[ai][ae]が[a:] [io][eo]が[ju:][jyo:]に変化する特徴がある</p> <p>広島岡山 動詞の否定で「食べん」「行かん」のように「～ん」が使われる</p> <p>山口 「ら抜き言葉」「れ不足言葉」は古くから常用されていた。</p>
<p><b>北海道</b> 「張り切る」「はっちゃきこく」「とても」が「たいした」</p> <p>方言 別れ際の挨拶で「したっけ」という表現を用いる</p>	<p><b>雲伯方言</b> 雲伯（うんぱく）方言に属する「出雲弁」は西のズーズー弁と呼ばれる</p> <p>島根 「だんだん（ありがとう）」「がっしょ（一生懸命）」</p> <p>鳥取 「ひまぐらし（まぶしい）」</p>
<p><b>東北方言</b> 音韻面「い-え」「す-し」「ち-つ」「じ-ず」無区別。「しし(寿司)」</p> <p>文法面で方向/目的を表す助詞「さ」を用いる。「東京<b>さ</b>行く」</p> <p>在宅確認で、現在の事象でも「た」を用いる。「～さん、<b>いた</b>か？」</p>	<p><b>四国方言</b> 音韻面で四つ仮名「じ-ぢ/ず-づ」の区別が残っている</p> <p>香川徳島 文法面で一部に係り結びが残っている。</p> <p>愛媛高知 語尾に「～わい」「～んよ」「みとん（見て）」「もんた（帰った）」</p>
<p><b>関東方言</b> 音韻面で母音の無声化が目立つ。くさ[kusa]ます[masu]</p> <p>「ひ-し」の混同がある。「布団<b>ひ</b>く（しく）」</p> <p>[ai][ae]が[e:]になる。「おめー（おまえ）」「うるせー（うるさい）」</p>	<p><b>豊日方言</b> 文法面で「おくる（起きる）」「あくる（開ける）」など動詞の</p> <p>大分宮崎 二段活用形式が残っている。宮崎弁が2007年流行語大賞</p> <p>「どけんかせんといかん（どうになしないとイケない）」</p>
<p><b>東海東山</b> ギア方言（岐阜/愛知）ヤナシ方言（山梨/長野/静岡）越後方言</p> <p>方言 中部方言とも呼ばれる。東西の堺。基本東京式アクセント</p> <p>文法面で推量・意志など助動詞的な言語形式に特徴がある。</p> <p>「そうずら（そうだろ）」「きつら（来ただろう）」</p> <p>「いかーず（行こう）」語尾に「ら（だよね）」「だら（だよね）」</p>	<p><b>肥筑方言</b> 文法面で助詞・助動詞の言語形式に特徴がある。</p> <p>福岡長崎 「本ば読む」「赤か花の咲いた」「良かばってん」「明日雨ばい」</p> <p>佐賀隈本 「今日晴れたい」形容詞の終止形が「良い-よか」「きれい-きれいか」</p> <p>逆接に「～ばってん」を使う</p>
<p><b>八丈島</b> ユネスコ分類で【危険】になっている。本土と大きく違うので</p> <p>方言 八丈島語とも呼ばれる。本土/八丈島/琉球という3分類もある。</p> <p>伊豆諸島 形容詞の連体形が「け」になる。古代東国方言の名残形式が残る。</p> <p>「あかけ花（あかい）」「かなし<b>け</b>こと（かなしいこと）」</p>	<p><b>薩偶方言</b> 音韻面で語末に来る狭母音[i][u]が脱落する</p> <p>鹿児島 「口」「首」「来る」などを「クッ」と撥音</p> <p>文法面では丁寧表現として、「ごわす」「もす」「ごぞもす」がある</p> <p>「いみし（ひどい）」「むぞか（可愛らしい）」</p>
<p><b>北陸方言</b> 音声面でうねり音調（ゆすり音調）卓立下降型の文末イントネーション。</p> <p>新潟 文末イントネーションが揺れて伸びる。</p> <p>富山石川 「あのね」が「あのね～～」</p>	<p><b>奄美方言</b> ユネスコ分類で【危険】音韻面で7母音の体系を持つ。</p> <p>動詞の終止形「書く」「かきゅん」「かりゅん」の形をとる</p> <p>形容詞の終止形「赤い」「あかさり」「あかさん」の形をとる</p>
<p><b>近畿方言</b> 音韻面で音声の無声化はほとんど見られない。</p> <p>一拍語が長めに発音される。手「てー」目「めー」</p> <p>高高で始まる各線とがたの名詞がある</p> <p>身内尊敬用法「はる」尊敬の助動詞 「お父さんはいてはります。」</p> <p>和歌山：無敬語地帯</p>	<p><b>沖縄方言</b> ユネスコ分類で【危険】に分類</p> <p>ウチナーグチ。音韻面で[e]が[i]に[o]が[w]として現れる。3母音体系</p> <p>「あみ（雨）」「うとう（音）」[ame-ami][oto-wtu]</p> <p><b>先島方言</b> ユネスコ分類で【重大】八重山方言/与那国方言【危険】宮古島方言</p> <p>八重山 音韻面で[h]が[p]で発音される古代日本の発音の名残がある</p> <p>宮古与那国 [ばな（花）][ばこ（箱）] 「宮古方言」「与那国方言」「八重山方言」</p>

**新方言** 共通語でもなく、方言が使われていた地域でも方言扱いされる言語。  
若者を中心に広がり、新たに方言が生まれる言語現象。

元は方言だが、若者が共通語にない語彙を方言から取り入れて  
くだけた会話で使う現象

**井上史雄**提唱：3つの性質

1. 標準語として認められている形と違うこと。
2. 若い世代に向けて勢力を拡大しつつあること
3. 話し手が、非標準語として扱い、改まった場面でなく普段の  
場面で使うこと。

西日本「書かなんだ」「書かざった」→「書かんかった」

山形県「見んべ」→「見っぺ」

多摩方言「うざい」→新方言「うざったい」→「うざい」（全国）

「やっぱ」「ちがかった」「みたく」「じゃん」

東京「超」名古屋「でら」大阪「めっちゃ」広島「ぶち」

**ネオ方言** **真田信治**提唱。共通語と方言が接触をして二つの形式が混ざって  
生まれた新しローカルスピーチスタイル。

関西方言	共通語	ネオ方言
「書かなんだ」	書かなかった	「書かへんかった」
「書かへんだ」		
「きーへん」	こない	「こーへん」
「けーへん」		

共通語と方言の両方の性格を有する方言スタイルであるといえる。